クラスタ モードアカウントのモニタリングとレポート作成

この章は、次の項で構成されています。

- クラスタ モード アカウントのモニタリングとレポート作成について，2 ページ
- クラスタ モード アカウントとノードについて，3 ページ
- ディスクについて，3 ページ
- ライセンスの追加，3 ページ
- 論理インターフェイスの管理，4 ページ
- ポートの設定，7 ページ
- インターフェイス グループの管理，8 ページ
- VLAN の管理，10 ページ
- 集約の管理，11 ページ
- SVM の管理，13 ページ
- FCP サービスの管理，45 ページ
- SVM ピアの作成と管理，47 ページ
- クラスタ ピアの作成，48 ページ
- SnapMirror 関係および SnapVault 関係の管理，48 ページ
- SnapMirror ポリシーの管理，51 ページ
- スナップショット ポリシーの管理，54 ページ
- ジョブの管理，55 ページ
- Cron ジョブ スケジュールの管理，56 ページ
- NFS サービスの管理，57 ページ

- システム タスクの管理，59 ページ
- ルーティング グループ ルートの管理，59 ページ
- ライセンスの管理，60 ページ

クラスタモードアカウントのモニタリングとレポート作成について

Cisco UCS Director に、各 NetApp クラスタ モード（C モード）アカウント内のすべてのマネージド コンポーネントが表示されます。これらのコンポーネントはハードウェアまたはソフトウェアです。

モニタリングできるコンポーネント

各コンポーネントをモニタして、それらの作成、削除、変更などのタスクを実行できます。次のコンポーネントが C モード アカウントでモニタされます。

- ノード
- SVM
- 集約
- SVM ピア
- クラスタ ピア
- SnapMirror
- SnapMirror ポリシー
- ジョブ
- フェールオーバー グループ
- ディスク
- FC アダプタ
- スナップショット ポリシー
- ルーティング グループ ルート
- 論理インターフェイス（LIF）
- ポート
- インターフェイスグループ
- vLAN
- ライセンス
- Cron ジョブ スケジュール

- NFS サービス
- FCP サービス
- システムのタスク

クラスタ モード アカウントとノードについて

Clustered Data ONTAP は、NetApp スケールアウト ストレージ構成のイネーブラです。クラスタの基本構成要素は、2 つのストレージ コントローラが同じディスク セットに相互接続された既知の NetApp HA ペアです。1 つのコントローラで障害が発生すると、別のコントローラがそのストレージを引き継ぎ、データ供給を継続します。

Data ONTAP クラスタでは、それぞれのストレージ コントローラがクラスタ ノードと呼ばれており、ノードはさまざまなモデルやサイズのものを使用できます。クラスタでは、ノードがクラスタ ネットワークを介して他のノードに接続されます。

ノードは、Data ONTAP クラスタ モード システムに物理ストレージを提供するディスク シェルフまたは Data ONTAP ユースにアレイ LUN を提供するサードパーティ ストレージ アレイにも接続されます。

ディスクについて

ディスクは集約内にまとめてグループ分けされます。集約はそれに関連付けられたボリュームにストレージを提供します。

[ディスク（Disks）] タブをクリックすると、そのアカウントで使用可能なすべてのディスクが表示されます。ディスクを選択して [詳細の表示（View Details）] をクリックすると、ディスクの要約の詳細が表示されます。

ライセンスの追加

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [ライセンス（Licenses）] タブをクリックします。

アカウントで使用可能なライセンスが表示されます。

ステップ 4 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 5 [クラスタへのライセンスの追加（Add License to Cluster）] ダイアログボックスの [ライセンスコード（License Code）] フィールドにライセンス コードを入力します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

論理インターフェイスの管理

論理インターフェイス（LIF）は、物理ネットワーク ポート、つまり、イーサネット ポートに関連付けられた IP アドレスです。コンポーネントに障害が発生した場合は、LIF マネージャによって解釈されたポリシーに基づいて、論理インターフェイスがフェールオーバーまたは別の物理ポート（場合によっては別のノード上）に移行します。LIF は、コンポーネントの障害に関係なく、ネットワーク アクセスを提供し続けます。1 つの SVM に対して複数の LIF を作成できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [論理インターフェイス（Logical Interfaces）] タブをクリックします。
アカウントで作成された LIF が表示されます。[論理インターフェイス（Logical Interfaces）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
[LIFの作成（Create LIF）]	単一の SVM 上で論理インターフェイスを作成します。

LIF を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	選択した LIF を削除します。
[FCPポート名の設定（Set FCP Portname）]	LIF の FCP アダプタ ポート名を設定します。

操作	説明
[LIFの変更（Modify LIF）]	LIF の次の値を更新します。ホーム ノード、ホーム ポート、IP アドレス、サブネットマスク、および フェールオーバー ポリシー。
[LIFの移行（Migrate LIF）]	指定したノード上のポートまたはインターフェイス グループに論理インターフェイスを移行します。それぞれのドロップダウンリストからノード名とポート名を選択します。

論理インターフェイスの作成

ステップ 1 [論理インターフェイス（Logical Interfaces）] タブに移動します。
[論理インターフェイス（Logical Interfaces）] タブに移動する方法については、インターフェイス グループの管理, （8 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [LIFの作成（Create LIF）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ロール（Role）] ドロップダウンリスト	LIF のロールとして次のいずれかを選択します。 • データ • クラスタ間 • クラスタの管理
[SVM 名（SVM Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SVM を選択します。
[ホストノード（Home Node）] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからノードを選択します。

[名前（Name）]	説明
[許可されているプロトコル（Allowed Protocols）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、次のリストから許可されているプロトコルを選択します。 • NFS • CIFS • Flexcache • iSCSI • FCP
[論理インターフェイス名（Logical Interface Name）] フィールド	論理インターフェイスの名前。
[Ipアドレス（IP Address）] フィールド	ネットワークの IP アドレス。
[サブネットマスク（Subnet mask）] フィールド	ネットワークのサブネット マスク。
[フェイルオーバーポリシー（Failover Policy）] ドロップダウンリスト	LIF のフェールオーバー ポリシーとして次のいずれかを選択します。 • [Nextavail] • 無効 • [プライオリティ（Priority）] （注） FCP と iSCSI LIF の場合は、フェールオーバー ポリシーが [無効（Disabled）] です。CIFS と fcache LIF の場合は、デフォルト ポリシーが [Nextavail] です。
[フェイルオーバーグループの使用（Use Failover Group）] ドロップダウンリスト	フェールオーバー グループ タイプとして次のいずれかを選択して、フェールオーバー ルールがシステム定義か、管理者による手動作成か、無効かを指定します。 • [システム定義（System-Defined）] • 無効 • [有効（Enabled）]

[名前（Name）]	説明
[フェールオーバーグループ（Failover Group）] ドロップダウンリスト	このフィールドは、[フェイルオーバーグループの使用（Use Failover Group）] として [有効（Enabled）] が選択された場合にのみ適用されます。フェールオーバー グループを選択して、管理者によって作成されたフェールオーバーグループを指定します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

ポートの設定

ポートは、物理ポート（NIC）と、インターフェイス グループや VLAN などの仮想ポートのどちらかです。LIF は現在バインドされているポートを介してネットワーク上で通信します。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [ポート（Ports）] タブをクリックします。

ステップ 4 設定するポートの行を選択し、[ポートの設定（Configure Port）] をクリックします。

ステップ 5 [ポートの設定（Configure Port）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[管理スピード（Administrative Speed）] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから管理スピードを選択します。
[ロール（Role）] ドロップダウンリスト	ロールを選択します。
[管理ステータス有効（Admin Status Enbale）] チェック ボックス	管理ステータスを有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。
[MTU] フィールド	ポートの最大転送単位（MTU）。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

インターフェイス グループの管理

インターフェイス グループは、単一のトランク ポートとして機能する複数の物理ポートを含むポートの集合です。拡張機能には、向上した復元力、向上した可用性、およびロード シェアリングが含まれます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [インターフェイスグループ（Interface Groups）] タブをクリックします。
アカウントで作成されたインターフェイス グループが表示されます。[インターフェイスグループ（Interface Groups）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	新しいインターフェイス グループを作成します。

インターフェイス グループを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	インターフェイス グループを削除します。
[ポートの追加（Add Port）]	インターフェイス グループにポートを追加します。
[ポートの削除（Remove Port）]	インターフェイス グループからポートを削除します。

インターフェイス グループの作成

ステップ 1 [インターフェイスグループ（Interface Groups）] タブに移動します。

[インターフェイスグループ（Interface Groups）] タブに移動する方法については、インターフェイス グループの管理, （8 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [IfGroupの作成（Create IfGroup）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	**説明**
[ノード名（Node Name）] ドロップダウンリスト	インターフェイス グループを作成する必要のあるノード名を選択します。
[インターフェイスグループ名（Interface Group Name）] フィールド	インターフェイス グループの名前。 （注） インターフェイス グループ名の許容可能な形式は <letter><number><letter> です。名前の先頭は文字の「a」にする必要があります。
[分散型機能（Distribution Function）] ドロップダウンリスト	ポート インターフェイス グループの配信機能として次のオプションのいずれかを選択します。 • Mac • IP • 逐次 • [ポート（Port）]
[ポリシーの作成（Create Policy）] ドロップダウンリスト	インターフェイス グループの作成ポリシーとして次のオプションのいずれかを選択します。 • マルチモード（Multimode） • マルチモードLCAP（Multimode LCAP） • シングルモード（Singlemode）

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

VLAN の管理

VLAN は、複数のブロードキャスト ドメインを作成することによって、ネットワークの論理セグメンテーションを可能にします。また、VLAN は、複数の物理ネットワーク セグメントにまたがることができます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [VLAN（vLANs）] タブをクリックします。
アカウントで作成された VLAN が表示されます。[VLAN（vLANs）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	クラスタ アカウント内のノードの 1 つで VLAN を作成します。

VLAN を選択すると、[削除（Delete）] アクションが表示されます。

VLAN の作成

ステップ 1 [vLAN（vLANs）] タブに移動します。
[vLAN（vLANs）] タブに移動する方法については、VLAN の管理, （10 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [vLANの作成（Create vLAN）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ノード名（Node Name）] ドロップダウンリスト	VLAN を作成する必要のあるノードを選択します。
[ポート名（Port Name）] ドロップダウンリスト	ポートまたはインターフェイス グループの名前を選択します。

[名前（Name）]	説明
[vLAN ID] フィールド	VLAN ID。VLAN ID の有効範囲は 1 ～ 4094 です。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

集約の管理

集約は、ディスクの 1 つ以上の RAID グループで構成されます。また、集約はプレックスと RAID グループを管理するために使用されます。これは、これらのエンティティが集約の一部として存在するためです。既存の RAID グループにディスクを追加することによって、または、新しい RAID グループを追加することによって、集約内の使用可能なスペースを増やすことができます。集約にディスクを追加した後、ディスクを取り外して記憶域を削減するには、集約を削除する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [集約（Aggregates）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能な集約が表示されます。[集約（Aggregates）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り （Favorites）]	現在のページを [お気に入り （Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	選択されたノード上で集約を作成します。

集約を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	選択された集約を削除します。
Online	集約をオンライン状態に移行します。

操作	説明
オフライン	集約をオフライン状態に移行します。
[ディスクの追加（Add Disk）]	集約にディスクを追加します。
[タグの管理（Manage Tag）]	集約にタグを追加したり、割り当てられたタグを編集したり、集約グループからタグを削除したりします。 （注） タグ付け可能なエンティティが物理ストレージおよびNetApp集約として割り当てられたタグが表示されます。タブ ライブラリの詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。
[タグの追加（Add Tags）]	集約にタグを追加します。 （注） タグ付け可能なエンティティが物理ストレージおよびNetApp集約として割り当てられたタグが表示されます。タブ ライブラリの詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。
[タグの削除（Delete Tags）]	集約からタグを削除します。 （注） タグ付け可能なエンティティが物理ストレージおよびNetApp集約として割り当てられたタグが表示されます。タブ ライブラリの詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

集約の作成

ステップ 1 [集約（Aggregates）] タブに移動します。

[集約（Aggregates）] タブに移動する方法については、集約の管理, （11 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [集約の作成（Create Aggregate）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	**説明**
[集約名（Aggregate Name）] フィールド	集約の名前。
[ディスク数（Disk Count）] フィールド	集約内のディスクの数。
[ノード名（Node Name）] フィールド	[選択（Select）]をクリックし、集約を作成するノードを選択します。
[ディスクリスト（Disk List）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、集約するディスクを選択します。
[RAIDタイプ（Raid Type）] ドロップダウンリスト	リストから RAID タイプを選択します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

SVM の管理

ストレージ仮想マシン（SVM。旧称：Vserver）は、複数のプロトコルとユニファイドストレージをサポートするセキュアな仮想ストレージ サーバです。各 SVM には、データ ボリュームとクライアントにデータを供給する 1 つ以上の論理インターフェイス（LIF）が実装されています。SVM は、共有されている仮想データ ストレージとネットワークを安全に分離し、クライアントからは単一の専用サーバとして認識されます。SVM ごとに固有の管理者認証ドメインが付与され、SVM 管理者によって個別に管理されます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能な SVM が表示されます。[SVM（SVMs）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	**説明**
更新（Refresh）	現在のページを更新します。

操作	説明
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	クラスタ アカウント内のノードの 1 つで SVM を作成します。

いずれかの SVM を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	既存の SVM を更新します。
削除（Delete）	既存の SVM を削除します。
[開始（Start）]	SVM を開始します。
停止（Stop）	SVM を停止します。
[ルーティンググループの作成（Create Routing Group）]	ルーティング グループを作成します。 ルーティング グループを作成するには、次のフィールドに値を入力します。 • [ルーティンググループ（Routing Group）] フィールド：ルーティング グループの名前。 • [接続先アドレス（Destination Address）] フィールド：宛先の IP アドレスおよびサブネット マスク。たとえば、「192.168.1.0/24」と入力します。 • [ゲートウェイアドレス（Gateway Address）] フィールド：ゲートウェイの IP アドレス。たとえば、192.168.1.1 と指定します。 • [メトリック（Metric）] フィールド：LIF のメトリック（ホップ カウント）。
[NFSサービスの開始（Start FCP Service）]	NFS サービスを開始します。
[NFSサービスの停止（Stop FCP Service）]	NFS サービスを停止します。
次の追加のオプションがドロップダウン アイコンに表示されます。	
[FCPサービスの開始（Start FCP Service）]	FCP サービスを開始します。

操作	説明
[FCPサービスの停止（Stop FCP Service）]	FCP サービスを停止します。
[ISCSIサービスの開始（Start ISCSI Service）]	ISCSI サービスを開始します。
[ISCSIサービスの停止（Stop ISCSI Service）]	ISCSI サービスを停止します。
[CIFSの設定（Setup CIFS）]	SVM 用の CIFS を設定します。
[CIFSの変更（Modify CIFS）]	SVM 用の CIFS セットを更新します。
[CIFSの削除（Delete CIFS）]	SVM 用の CIFS セットを削除します。
[グループ割り当て（Assign Group）]	ユーザまたはユーザ グループに SVM を割り当てます。
[タグの管理（Manage Tag）]	SVM にタグを追加したり、割り当てられたタグを編集したり、SVM グループからタグを削除したりします。 （注） 作成中にタグ付け可能なエンティティが割り当てられたタグが表示されます。
[タグの追加（Add Tags）]	集約にタグを追加します。 （注） 作成中にタグ付け可能なエンティティが割り当てられたタグが表示されます。タブ ライブラリの詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。
[タグの削除（Delete Tags）]	集約からタグを削除します。 （注） 作成中にタグ付け可能なエンティティが割り当てられたタグが表示されます。タブ ライブラリの詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

SVM の作成

ステップ 1 [SVM（SVMs）] タブに移動します。
[SVM（SVMs）] タブに移動する方法については、SVM の管理, （13 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [SVM の作成（Create SVM）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	**説明**
[SVM 名（SVM Name）] フィールド	SVM の名前。
[サービススイッチ名（Name Service Switch）] ドロップダウンリスト	リストからネーム サービス スイッチを選択します。
[ボリューム名（Volume Name）] フィールド	SVM メタデータを保存する必要のあるルート ボリュームの名前。
[集約名（Aggregate Name）] ドロップダウンリスト	ボリュームを作成する必要のある集約名を選択します。
[セキュリティスタイル（Security Style）] ドロップダウンリスト	リストからセキュリティ スタイルを選択します。
[プロトコル（Protocols）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SVM でサポートされるプロトコルのいずれかまたはすべてを選択します。 • NFS • CIFS • iSCSI • FCP
[スナップショットポリシー（Snapshot Policy）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SVM のスナップショット ポリシーを 1 つ以上選択します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

次の作業

SVM を作成したら、右ペインの紫色のドロップダウンリスト アイコンを展開して、[詳細の表示（View Details）] を選択し、SVM の詳細を表示します。その SVM の CIFS をセットアップ、変更、または削除することもできます。

SVM 内のボリュームの管理

ボリュームは、NFS マウントを介して UNIX ホストにまたは CIFS 共有を介して Windows ホストにエクスポートするときに構造がユーザに認識される論理ファイル システムです。ボリュームは最も包括的な論理コンテナです。ファイルとディレクトリ、Qtree、および LUN を保存できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、そのアカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインの紫色のドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] を選択します。

ステップ 5 [ボリューム（Volumes）] タブをクリックします。
SVM で使用できるボリュームが表示されます。[ボリューム（Volumes）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	NetApp C モード アカウントでボリュームを作成します。

操作	説明
[マルチスナップショットの作成（Create Multi-Snapshot）]	ボリュームのマルチスナップショットを作成します。 マルチスナップショットを作成するには、[マルチボリュームスナップショットの作成（Create Multi-Volume Snapshot）] ダイアログボックスで以下の手順を実行します。 **1** [選択（Select）] をクリックし、選択するボリュームのチェック ボックスをオンにします。 **2** [スナップショット名（Snapshot Name）] フィールドに、スナップショットの名前を入力します。 **3** [送信（Submit）] をクリックします。

ボリュームを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	既存のボリュームを更新します。
削除（Delete）	ボリュームを削除します。
Online	ボリュームをオンライン状態に移行します。
オフライン	ボリュームをオフライン状態に移行します。
サイズ変更（Resize）	ボリュームのサイズを変更します。 ボリュームのサイズを変更するには、次のフィールドに値を入力します。 **1** [ボリューム名（Volume Name）] フィールド：表示専用。ボリュームの名前。 **2** [現在のボリュームサイズ（Current Volume Size）]：表示専用。GB 単位の現在のボリュームのサイズ。 **3** [新しいサイズ（New Size）] フィールド：ボリュームの必要なサイズ。 **4** [サイズの単位（Size Units）] ドロップダウンリスト：[MB]、[GB]、または [TB] からボリュームのサイズを選択します。

操作	説明
[ボリュームの複製（Clone Volume）]	ボリュームを複製します。 [クラスタボリュームの複製（Clone Cluster Volume）] ダイアログボックスで、ボリューム名を入力し、親スナップショットを選択します。
[マウント（Mount）]	指定されたジャンクション パスにボリュームをマウントします。ジャンクション パスは/で始める必要があり、/ で終わることができません。
[マウント解除（Unmount）]	ボリュームをマウント解除します。
[移動（Move）] をクリックします	選択された集約にボリュームを移動します。
[重複排除有効（Enable Dedupe）]	ボリューム上のデータ重複除去を有効にして、重複したエントリを削除します。

SVM 内のボリュームの作成

ステップ 1 [ボリューム（Volumes）] タブに移動します。
[ボリューム（Volumes）] タブに移動する方法については、「SVM 内のボリュームの管理」の項を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [ボリュームの作成（Create Volume）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ボリュームタイプ（Volume Type）] ドロップダウンリスト	ボリュームのタイプを選択します。
[ボリューム名（Volume Name）] フィールド	ボリュームの名前。
[ボリュームサイズ（Volume Size）] フィールド	作成するボリュームのサイズ。
[集約名（Aggregate Name）] ドロップダウンリスト	リストから集約を選択します。

[名前（Name）]	説明
[ボリュームの状態（Volume State）] ドロップダウンリスト	ボリュームの状態を選択します。
[ボリュームサイズの単位（Volume Size Units）] ドロップダウンリスト	[MB]、[GB]、または [TB] としてボリューム サイズを選択します。
[容量保証（Space Guarantee）] ドロップダウンリスト	リストから保証された容量を選択します。
[セキュリティスタイル（Security Style）] ドロップダウンリスト	セキュリティ スタイルを選択します。
[スナップショットのサイズ（Snapshot Size）] フィールド	ボリュームによって使用されるパーセンテージとしてのスナップショット サイズ。
[エクスポートポリシー（Export Policy）] ドロップダウンリスト	エクスポート ポリシーを選択します。
[スナップショットポリシー（Snapshot Policy）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、ボリュームのスナップショット ポリシーを選択します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

ボリューム LIF の関連付けの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モードアカウントを含むポッドを選択し、C モードアカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインの紫色のドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [ボリュームLIFの関連付け（Volume LIF Association）] タブをクリックします。
SVM アカウントで使用可能なボリュームに関連付けられている LIF が表示されます。[ボリュームLIFの関連付け（Volume LIF Association）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。

操作	説明
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。

LUN の管理

論理ユニット番号（LUN）は、ファイバ チャネルや iSCSI などの SCSI プロトコルまたは同様のプロトコルによってアドレス指定されるデバイスである論理ユニットを識別するために使用されます。LUN は、ストレージ エリア ネットワーク（SAN）経由で共有されたブロック ストレージ アレイの管理で中心的役割を果たします。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [LUN（LUNs）] タブをクリックします。
SVM で使用可能な LUN が表示されます。[LUN（LUNs）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	NetApp C モード アカウントで LUN を作成します。

LUN を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	LUN を削除します。LUN の強制削除を許可する場合は、[LUNの破棄（Destroy LUN）] ダイアログボックスで [強制（Force）] チェック ボックスをオンにします。

操作	説明
サイズ変更（Resize）	ボリューム内の LUN のサイズを変更します。 LUN のサイズを変更するには、次のフィールドに値を入力します。 **1** [LUNサイズ（LUN Size）] フィールド：LUN の必要なサイズ。 **2** [サイズの単位（Size Units）] ドロップダウンリスト：[MB]、[GB]、または [TB] から LUN のサイズを選択します。
[複製（Clone）]	同じボリューム内のターゲット LUN にソース LUN を複製します。LUN の複製処理を非同期的に開始します。 LUN を複製するには、次のフィールドに値を入力します。 **1** [LUN名（LUN Name）] フィールド：表示専用。LUN の名前。 **2** [スナップショット複製（Snapshot Clone）] チェック ボックス：スナップショットから LUN を複製する場合に、このチェック ボックスをオンにします。 **3** [新しいLUN名（New LUN Name）] フィールド：新しい LUN の名前。
[オフライン/オンライン（Offline/Online）]	LUN をオンラインまたはオフライン状態に移行します。
[iGroupのマッピング（Map iGroup）]	LUN を既存のイニシエータ グループの 1 つにマップします。[イニシエータグループ（Initiator Group）] ドロップダウンリストからイニシエータ グループ（iGroup）を選択します。LUN ID を指定する場合は、[LUN IDの指定（Specify LUN ID）] チェックボックスをオンにします。オフにすると、LUN ID が自動的に生成されます。
[iGroupのマップ解除（Unmap iGroup）]	確認後に、選択された LUN から iGroup をマップ解除します。
[スペース予約の切り替え（Toggle Space Reservation）]	選択された LUN のスペース予約設定を有効または無効にします。

操作	説明
[詳細の表示（View Details）]	LUN の要約を表示します。

LUN の作成

ステップ 1 [LUN（LUNs）] タブに移動します。
[LUN（LUNs）] タブに移動する方法については、LUN の管理, （21 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [LUNの作成（Create LUN）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ボリュームの選択（Select Volume）] ドロップダウンリスト	LUN が属しているボリュームを選択します。
[LUN名（LUN Name）] フィールド	LUN の名前。
[サイズ（Size）] フィールド	作成する LUN に必要なサイズ。
[サイズの単位（Size Units）] ドロップダウンリスト	[MB]、[GB]、または [TB] としてボリューム サイズを選択します。
[OSタイプ（OS Type）] ドロップダウン リスト	リストからオペレーティング システムのタイプを選択します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

Qtree の管理

Qtree はパーティションの概念に似ています。また、サイズを制限するためにクォータを適用可能なボリュームのサブセットを作成します。特殊なケースとして、Qtree をボリューム全体にするこ

とができます。いつでも Qtree のサイズを変更できることから、Qtree はパーティションよりも柔軟です。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [QTree（QTrees）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能な Qtree が表示されます。[QTree（QTrees）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
[QTreeの作成（Create QTree）]	QTree を作成します。

QTree を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
名前の変更（Rename）	Qtree の名前を変更します。
変更（Modify）	Qtree の oplock とセキュリティ スタイルを更新します。
削除（Delete）	確認後に QTree を削除します。

QTree の作成

ステップ 1 [QTree（QTrees）] タブに移動します。

[QTree（QTrees）] タブに移動する方法については、「QTree の管理」の項を参照してください。

ステップ 2 [QTreeの作成（Create QTree）] をクリックします。

ステップ 3 [QTreeの作成（Create QTree）] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a) [ボリューム名（Volume Name）] フィールドで、[選択（Select）] をクリックして Qtree を作成するボリュームを選択します。

b) [Qtree名（Qtree Name）] フィールドに、QTree の名前を入力します。

c) [送信（Submit）] をクリックします。

クォータの管理

クォータは、特定のユーザまたはグループが消費できるディスク領域とファイル数を制限します。またクォータは、qtree で使用される合計領域および合計ファイル数や、qtree 内のユーザおよびグループの使用率を制限できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインの紫色のドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [クォータ（Quotas）] タブをクリックします。
SVM アカウントで利用できるクォータが表示されます。[クォータ（Quotas）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorite）]	最も頻繁にアクセスするページが表示される [お気に入り（Favorites）] タブにこのページを追加します。
[クォータの作成（Create Quota）]	SVM アカウントで QTree 用のクォータを作成します。

クォータを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
[クォータの削除（Remove Quota）]	確認後に、qtree のクォータを削除します。
[クォータの変更（Modify Quota）]	qtree のクォータを更新します。

クォータの作成

ステップ 1 [クォータ（Quotas）] タブに移動します。
[クォータ（Quotas）] タブに移動する方法については、クォータの管理, （25 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [クォータの作成（Create Quota）] をクリックします。

ステップ 3 [クォータの作成（Create Quota）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

操作	説明
[Qtree名（Qtree Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、クォータを作成する必要がある Qtree を選択します。
[クォータタイプ（Quota Type）] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから [ツリー（Tree）] を選択します。
[ディスク容量のハード制限(GB)（Disk Space Hard Limit (GB)）] フィールド	GB 単位の最大ディスク容量の値。
[ファイルのハード制限（Files Hard Limit）] フィールド	クォータ内のファイルの最大数。
[しきい値(GB)（Threshold (GB)）] フィールド	GB 単位のディスク容量値のしきい値制限。
[ディスク容量のソフト制限(GB)（Disk Space Soft Limit (GB)）] フィールド	GB 単位の最大ファイル数のソフト クォータ。
[ファイルのソフト制限（Files Soft Limit）] フィールド	クォータ内のファイル数のソフト制限。

イニシエータ グループの管理

イニシエータ グループ（igroup）は、どのホストがストレージ システム上の指定された LUN にアクセスできるかを指定します。イニシエータ グループはプロトコル固有です。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [イニシエータグループ（Initiator Groups）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なイニシエータ グループが表示されます。[イニシエータグループ（Initiator Groups）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorite）]	最も頻繁にアクセスするページが表示される [お気に入り（Favorites）] タブにこのページを追加します。
作成（Create）	イニシエータ グループを作成します。

イニシエータ グループを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	イニシエータ グループを削除します。
名前の変更（Rename）	イニシエータ グループの名前を変更します。
[ポートセットのバインド（Bind Portset）]	iGroup にバインドするポート セットを選択します。
[ポートセットのアンバインド（Unbind Portset）]	iGroup からアンバインドするポート セットを選択します。

イニシエータ グループの作成

ステップ 1 [イニシエータグループ（Initiator Groups）] タブに移動します。
[イニシエータグループ（Initiator Groups）] タブに移動する方法については、イニシエータ グループの管理, （27 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [イニシエータグループの作成（Create Initiator Group）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[イニシエータ グループ名（Initiator Group Name）] フィールド	イニシエータ グループの名前。
[グループタイプ（Group Type）] ドロップダウンリスト	イニシエータ グループ タイプとして [ISCSI] または [FCP] を選択します。
[OSタイプ（OS Type）] ドロップダウン リスト	リストからオペレーティング システムのタイプを選択します。
[ポートセット名（Portset Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、テーブルからポート セットを選択します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

イニシエータの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM を選択し、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [イニシエータ（Initiators）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なイニシエータが表示されます。[イニシエータ（Initiators）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorite）]	[お気に入り（Favorites）] タブにこのページを追加します。このタブには、最も頻繁にアクセスするページが表示されます。
作成（Create）	イニシエータ グループにイニシエータを追加します。

イニシエータを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	イニシエータを削除します。イニシエータを強制的に削除する場合は、[強制（Force）] チェック ボックスをオンにします。 （注） イニシエータ グループの LUN マップが存在する場合は、イニシエータを削除できません。

イニシエータの追加

ステップ 1 [イニシエータ（Initiators）] タブに移動します。
[イニシエータ（Initiators）] タブに移動する方法については、イニシエータの管理, （28 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [イニシエータの作成（Create Initiator）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[イニシエータグループ名（Initiator Group Name）] ドロップダウンリスト	イニシエータを作成するイニシエータ グループを選択します。
[イニシエータ名（Initiator Name）] フィールド	イニシエータの名前。

[名前（Name）]	説明
[WWPNエイリアス（WWPN alias）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、イニシエータの WWPN エイリアスのチェック ボックスをオンにします。
[強制（Force）] チェックボックス	イニシエータを強制的に追加する場合に、このチェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

CIFS 共有の管理

CIFS プロトコルは、Microsoft オペレーティング システムのリモート ファイル操作（ネットワーク ドライブのマッピング）、閲覧（ネットワーク ネイバーフッドアイコン経由）、認証（Windows NT と Windows 2000）、およびリモート プリンタ サービスで使用されます。ネイティブな Microsoft ネットワーキングのコアが CIFS サービスを中心に構築されます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM を選択し、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [CIFS 共有（CIFS Shares）] タブをクリックします。
SVM で使用可能な CIFS 共有が表示されます。[CIFS共有（CIFS Shares）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	NetApp C モード アカウントで CIFS 共有を作成します。

CIFS 共有を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	CIFS 共有を削除します。
変更（Modify）	CIFS 共有のボリューム パスとコメントを更新します。
[共有アクセスの設定（Set Share Access）]	CIFS 共有アクセスを作成します。 CIFS 共有アクセスを作成するには、次のフィールドに値を入力します。 1 [権限（Permission）] ドロップダウンリスト：リストからアクセス権限のレベルを選択します。 2 [ユーザまたはグループ（User or Group）] フィールド：権限が列挙されたユーザまたはグループ名。 3 [コメント（Comment）] フィールド：コメント（ある場合）。
[共有アクセスの削除（Delete Share Access）]	CIFS 共有アクセスを削除します。
[共有アクセスの変更（Modify Share Access）]	CIFS共有にアクセスするための権限を更新します。

CIFS 共有の作成

ステップ 1 [CIFS共有（CIFS Share）] タブに移動します。
[CIFS共有（CIFS Share）] タブに移動する方法については、CIFS 共有の管理, （30 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [CIFS共有の作成（Create CIFS Share）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ボリューム名（Volume Name）] ドロップダウンリスト	CIFS 共有を作成するボリュームを選択します。
[共有名（Share Name）] フィールド	CIFS 共有の名前。

[名前（Name）]	説明
[コメント（Comment）] フィールド	コメント（ある場合）。
[共有アクセスの設定（Set Share Access）] チェックボックス	CIFS 共有へのアクセスを可能にする場合に、このチェック ボックスをオンにします。

DNS の管理

SVM アカウントのドメイン、設定されたネーム サーバ、および DNS の状態を表示できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインの紫色のドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [DNS] タブをクリックします。
SVM アカウントで設定された DNS が表示されます。[DNS] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。

IP ホスト名の管理

SVM アカウントのホストの IP アドレスおよび名前を表示できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインの紫色のドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [IPホスト名（IP Hostname）] タブを選択します。
SVM アカウントの SVM 名、IP アドレス、およびホスト名が表示されます。[IPホスト名（IP Hostname）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。

SIS ポリシーの管理

SIS 操作：圧縮および/または重複排除を実行するためのシングルインスタンス ストレージ（SIS）ポリシーを定義できます。データ圧縮はオンザフライで、および/またはスケジュールされたバックグラウンド処理として使用できます。この次に重複排除を行うことができます。重複排除は、各固有データ ブロックの単一のインスタンスのみが保存されている FlexVol ボリュームの重複データ ブロックを排除することで、ディスク領域の使用率を低減する方法です。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインの紫色のドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [SISポリシー（SIS Policies）] タブをクリックします。

SVM アカウントで利用できる SIS ポリシーが表示されます。[SISポリシー（SIS Policies）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	SVM アカウントで SIS ポリシーを作成します。

SIS ポリシーを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	確認後に、SIS ポリシーを削除します。
変更（Modify）	SIS ポリシーを更新します。

SIS ポリシーの作成

ステップ 1 [SISポリシー（SIS Policies）] タブに移動します。
[SISポリシー（SIS Policies）] タブに移動する方法については、SIS ポリシーの管理, （33 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [SVM での SIS ポリシーの作成（Create sis Policy on SVM）] ダイアログボックスで、次を実行します。

[名前（Name）]	説明
[SISポリシー名（SIS policy name）] フィールド	SIS ポリシーの名前。
[有効（Enabled）] ドロップダウンリスト	SVM で SIS ポリシーを有効にするには、[はい（true）] を選択します。
[QoSポリシー（QOS Policy）] フィールド	QoS ポリシーとして [ベストエフォート（best-effort）] または [バックグラウンド（background）] を選択します。
[期間（Duration）] フィールド	スケジュールされた SIS 操作が実行される時間。

[名前（Name）]	説明
[スケジュール（Schedule）] ドロップダウン リスト	ボリュームの SIS 操作のスケジュールを選択します。
[コメント（Comment）] フィールド	コメント（ある場合）。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

エクスポート ポリシーの管理

エクスポート ポリシーには、ボリュームへのクライアント アクセスを制御するエクスポート ルールが含まれます。エクスポート ポリシーは、クライアントがデータにアクセスできるように SVM 上にある必要があります。ボリュームへのクライアント アクセスを設定するには、エクスポート ポリシーを各ボリュームに関連付けます。

単一の SVM に複数のエクスポート ポリシーを含めることができます。これにより、複数のボリュームがある SVM に対し次のことを行うことができます。

- 単一の SVM に含まれる各ボリュームに対して別個にクライアント アクセス制御を行うため、SVM の各ボリュームに異なるエクスポート ポリシーを割り当てる。
- 各ボリュームに対し新しいエクスポート ポリシーを作成することなく同じクライアント アクセス制御を行うため、単一の SVM の複数のボリュームに同一のエクスポート ポリシーを割り当てる。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [エクスポートポリシー（Export Policies）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なエクスポート ポリシーが表示されます。[エクスポートポリシー（Export Policies）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。

操作	説明
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	エクスポート ルールを作成します。

エクスポート ポリシーを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	エクスポート ルールを更新します。
削除（Delete）	確認後にエクスポート ルールを削除します。

エクスポート ルールの管理

ボリュームへのクライアントアクセス要求の処理方法を決定するためにエクスポートルールを設定できます。

クライアントへのアクセスを許可するには、少なくとも 1 つのエクスポート ルールをエクスポートポリシーに追加する必要があります。エクスポートポリシーに複数のルールを含めると、ルールはルール インデックスに基づいて処理されます。ルールで定義されたアクセス許可は、エクスポート ルールで指定したクライアントの一致基準に一致するクライアントに適用されます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [エクスポートルール（Export Rules）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なエクスポート ルールが表示されます。[エクスポートルール（Export Rules）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。

操作	説明
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	エクスポート ルールを作成します。

エクスポート ルールを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	エクスポート ルールを更新します。
削除（Delete）	確認後にエクスポート ルールを削除します。

エクスポート ルールの作成

ステップ 1 [エクスポートルール（Export Rules）] タブに移動します。
[エクスポートルール（Export Rules）] タブに移動する方法については、エクスポート ルールの管理, （36 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [エクスポートルールの作成（Create Export Rule）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

操作	説明
[ポリシー名（Policy Name）] ドロップダウンリスト	新しいエクスポート ルールを追加するエクスポート ポリシーを選択します。エクスポート ポリシーがすでに存在している必要があります。詳細については、エクスポート ポリシーの管理, （35 ページ）を参照してください。

操作	説明
[アクセスプロトコル（Access Protocol）] ドロップダウンリスト	エクスポート ルールを適用するアクセス プロトコルを選択します。アクセス プロトコルの可能な値には次のものがあります。 • [いずれか（any）]：現在または将来のアクセス プロトコル • [nfs]：NFS の現在または将来のバージョン • [nfs3]：NFSv3 プロトコル • [nfs4]：NFSv4 プロトコル • [cifs]：CIFS プロトコル • [flexcache]：FlexCache プロトコル
[クライアント一致仕様（Client Match Spec）] フィールド	エクスポートルールが適用されるクライアント（複数可）。 次のいずれかの形式で一致を指定できます。 • ホスト名として、たとえば host1 • IPv4 アドレスとして、たとえば 10.1.12.24 • 多数のビットとして表されるサブネット マスクを含む IPv4 アドレスとして、たとえば 10.1.12.10/4 • ネットワーク マスクを含む IPv4 アドレスとして、たとえば 10.1.16.0/255.255.255.0 • @ 文字で始まる netgroup 名を持つ netgroup として、たとえば @eng • . 文字で始まるドメイン名として、たとえば .example.com

操作	説明
[読み取り専用アクセスルール（Read Only Access Rule）] ドロップダウンリスト	ボリュームへの読み取り専用アクセスのセキュリティ タイプを定義するには、次のオプションのいずれかを選択します。 • [いずれか（any）]：着信要求のセキュリティ タイプに関係なく、ボリュームへの読み取りアクセスを許可します。着信要求の有効なセキュリティ タイプは変わりません。 （注） 着信要求のセキュリティ タイプが AUTH_NONE 場合、読み取りアクセスは匿名ユーザとして着信要求に付与されます。 • [なし（none）]：着信要求のセキュリティ タイプが読み取り専用ルールの値のリストに明示的にリストされていない場合、匿名ユーザとしてボリュームへの読み取りアクセスを許可します。着信要求の有効なセキュリティ タイプはなくなります。 • [未実施（never）]：着信要求のセキュリティ タイプに関係なく、ボリュームへのいずれのアクセスも許可しません。 • [krb5]：着信要求のセキュリティ タイプが Kerberos 5 の場合、ボリュームへの読み取りアクセスを許可します。着信要求の有効なセキュリティ タイプは krb5 になります。 • [ntlm]：着信要求のセキュリティ タイプが CIFS NTLM の場合、ボリュームへの読み取りアクセスを許可します。着信要求の有効なセキュリティ タイプは ntlm になります。 • [sys]：着信要求のセキュリティ タイプが AUTH_SYS の場合、ボリュームへの読み取りアクセスを許可します。着信要求の有効なセキュリティ タイプは sys になります。

操作	説明
[読み取り/書き込みアクセスルール（Read Write Access Rule）] ドロップダウンリスト	ボリュームへの読み取り/書き込みアクセスのセキュリティ タイプを定義するには、次のオプションのいずれかを選択します。 • [いずれか（any）]：着信要求の有効なセキュリティ タイプに関係なく、ボリュームへの書き込みアクセスを許可します。 • [なし（none）]：着信要求の有効なセキュリティ タイプがない場合、匿名ユーザとしてボリュームへの書き込みアクセスを許可します。 （注） 着信要求の有効なセキュリティ タイプがない場合、書き込みアクセスは匿名ユーザとして着信要求に付与されます。 • [未実施（never）]：着信要求の有効なセキュリティ タイプに関係なく、ボリュームへの書き込みアクセスを許可します。 • [krb5]：着信要求の有効なセキュリティ タイプが Kerberos 5 の場合、ボリュームへの書き込みアクセスを許可します。 • [ntlm]：着信要求の有効なセキュリティ タイプが CIFS NTLM の場合、ボリュームへの書き込みアクセスを許可します。 • [sys]：着信要求の有効なセキュリティ タイプが AUTH_SYS の場合、ボリュームへの書き込みアクセスを許可します。
[ルールインデックス（Rule Index）] フィールド	エクスポート ポリシー内のルールの順序を指定するエクスポート ルールのインデックス番号。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

スナップショット ポリシーの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なスナップショット ポリシーが表示されます。[スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	新しいスナップショット ポリシーを作成します。

スナップショット ポリシーを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
[有効化/無効化（Enable/Disable）]	スナップショット ポリシーを有効または無効にします。
削除（Delete）	スナップショット ポリシーを削除します。
[詳細の表示（View Details）]	スナップショット ポリシーのスケジュールを表示します。また、新しいスケジュールを作成する、スケジュールを更新する、またはスケジュールを削除するオプションが提供されます。

スナップショット ポリシーの作成

ステップ 1 [スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブに移動します。
[スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブに移動する方法については、 スナップショット ポリシーの管理, （41 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [スナップショットポリシーの作成（Create Snapshot Policy）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

操作	説明
[スナップショットポリシー名（Snapshot Policy Name）] フィールド	スナップショット ポリシーの名前。
[スケジュール（Schedule）] ドロップダウン リスト	ポリシーに追加する cron ジョブまたはスケジュール間隔を選択します。
[カウント（Count）] フィールド	スケジュールに対して保持するスナップショットの数。
[Snapmirrorラベル（Snapmirror label）] フィールド	SnapMirror のラベル。
[プレフィックス（Prefix）] フィールド	作成したスナップショット名に含めるプレフィックス テキスト。
[有効（Is Enabled）] チェックボックス	ポリシーを有効にする場合に、このチェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

ポート セットの管理

ポート セットは、ファイバ チャネル（FC）ターゲット ポートのグループで構成されています。LUN をストレージ システムのターゲット ポートのサブセットだけで使用できるようにするには、ポート セットを igroup にバインドします。igroup 内のホストは、ポート セットのターゲット ポートに接続することによってのみ LUN にアクセスできます。

igroup がポート セットにバインドされていない場合、igroup にマッピングされている LUN はすべてのストレージ システム FC ターゲット ポートで使用できます。igroup は、どのイニシエータ

LUN がエクスポートされるかを制御します。ポートセットは、それらのイニシエータがアクセスできるターゲット ポートを制限します。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [ポートセット（Portsets）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なポート セットが表示されます。[ポートセット（Portsets）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	ポート セットを作成します。 [ポートセットの作成（Create Portset）] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。 **1** [ポートセット名（Portset Name）] フィールドに、ポートセット名を入力します。 **2** [ポートセットタイプ（Portset Type）] ドロップダウンリストで、ポート セット タイプとして [ISCSI]、[FCP]、または[混合（MIXED）] を選択します。 **3** [送信（Submit）] をクリックします。

ポート セットを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
[破棄（Destroy）]	確認後にポート セットを削除します。

操作	説明
[ポートの追加（Add Port）]	ポート セットにポートを追加します。[ポートセットへのポートの追加（Add Port To Portset）] ダイアログボックスで、[選択（Select）] をクリックし、ポート セットに追加する必要がある LIF を選択します。
[ポートの削除（Remove Port）]	ポートセットからポートを削除します。[ポートセットからのポートの削除（Remove Port From Portset）] ダイアログボックスで、ポート セットから削除する必要があるポートを選択します。

WWPN エイリアスの管理

ワールドワイドポート名（WWPN）は、Data ONTAP で 16 文字の 16 進値として表示される一意な 64 ビットの ID です。ただし、SAN の管理者は、特により大規模な SAN において、エイリアスを代わりに使用して FC ポートをより簡単に識別できる場合があります。WWPN に対し複数のエイリアスを作成できますが、複数の WWPN に同じエイリアスを使用することはできません。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM（SVMs）] タブをクリックします。

ステップ 4 詳細を確認する SVM をクリックし、右側のペインのドロップダウンリストから [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 [WWPNエイリアス（WWPN Aliases）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能な WWPN エイリアスが表示されます。[WWPNエイリアス（WWPN Aliases）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。

操作	説明
作成（Create）	WWPN エイリアスを作成します。 [WWPNエイリアスの作成（Create WWPN Alias）] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。 **1** [WWPNエイリアス（WWPN Alias）] フィールドに、WWPN エイリアス名を入力します。エイリアスは最大 32 文字にすることができ、A ～ Z、a ～ z の文字、0 ～ 9 の数字、ハイフン（-）、アンダースコア（_）、左波カッコ（{）、右波カッコ（}）およびピリオド（.）を含むことができます。 **2** [WWPN] フィールドに、FCP イニシエータ WWPN 名を入力します。たとえば、00:00:00:00:00:00:00:00。 **3** [送信（Submit）] をクリックします。

ポート セットを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	エイリアスの WWPN を更新します。
削除（Delete）	確認後に、WWPN エイリアスを削除します。

FCP サービスの管理

ファイバチャネル（FC）は、ファイバチャネル ファブリック経由で Small Computer System Interface（SCSI）プロトコルを使用して、ホストに論理ユニット（LUN）をエクスポートしたり、ブロック データを転送したりするためのストレージ システム上でライセンスされたサービスです。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [FCPサービス（FCP Services）] タブをクリックします。

アカウントで作成された FCP サービスが表示されます。[FCPサービス（FCP Services）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	SVM 上で FCP サービスを作成します。

FCP サービスを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
[破棄（Destroy）]	確認後に、FCP サービスを削除します。
[FCPサービスの開始（Start FCP Service）]	SVM 上で FCP サービスを開始します。
[FCPサービスの停止（Stop FCP Service）]	SVM 上で実行中の FCP サービスを停止します。

FCP サービスの作成

ステップ 1 [FCPサービス（FCP Services）] タブに移動します。
[FCPサービス（FCP Services）] タブに移動する方法については、FCP サービスの管理, （45 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [FCPサービスの作成（Create FCP Service）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[SVM 名（SVM Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、FCP サービスを作成する SVM を選択します。
[FCPターゲットノード名（FCP Target Node Name）] フィールド	FC ノードを識別するために使用されるワールドワイド ノード名（WWNN）。

[名前（Name）]	説明
[開始（Start）] チェック ボックス	SVM 上で FCP サービスを開始するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

SVM ピアの作成と管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SVM ピア（SVM Peer）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能な SVM ピアが表示されます。[SVM ピア（SVM Peer）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorite）]	最も頻繁にアクセスするページが表示される [お気に入り（Favorites）] タブにこのページを追加します。
作成（Create）	SVM ピア関係を作成します。 新しい SVM ピア関係を作成するには、次のフィールドに値を入力します。 • [ローカル SVM 名の選択（Select Local SVM Name）] フィールド：ローカル SVM として使用する SVM。 • [ピア SVM 名の選択（Select Peer SVM Name）] フィールド：ピア SVM として使用する SVM。

既存の SVM ピア関係を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

ボタン	説明
削除（Delete）	SVM ピア関係を削除します。
承認（Accept）	SVM ピア関係を承認します。
却下	SVM ピア関係を拒否します。

クラスタ ピアの作成

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [クラスタピア（Cluster Peer）] タブをクリックします。

ステップ 4 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 5 [クラスタピア関係の作成（Create Cluster Peer Relationship）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ピアクラスタの選択（Select Peer Cluster）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、使用するクラスタ アカウントを選択します。
[タイムアウト（秒）（Time Out (Seconds)）] フィールド	秒単位のタイムアウト値。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

SnapMirror 関係および SnapVault 関係の管理

SnapMirror ソフトウェアがディザスタ リカバリおよびデータ配信のソリューションであるのに対し、SnapVault はアーカイブ データに対してのみ使用されるバックアップ ソリューションです。SnapMirror は LAN または WAN 接続経由で 1 つ以上のネットワーク ファイラに高速でデータをミ

ラーリングします。障害が発生した場合、送信先ボリュームを送信元（Reverse SnapMirror）に設定できます。SnapVault はプライマリ ボリュームのスナップショット コピーをまとめたもので、データ損失またはシステム破損が発生した場合、最小限のダウンタイムで復元できます。

SnapMirror 関係と SnapVault 関係は、どちらも [SnapMirror（SnapMirrors）] タブから管理できます。[SnapMirror（SnapMirrors）] タブには、SnapMirror と SnapVault の両方のデータが表示されます。これらには [関係のタイプ（Relationship Type）] カラムがあり、データの区別ができます。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [SnapMirror（SnapMirrors）] タブをクリックします。
Cisco UCS Director に、アカウントで作成されたすべての SnapMirror 関係と SnapVault 関係が表示されます。[SnapMirror（SnapMirrors）] タブでは、次のアクションを実行できます。

[名前（Name）]	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	[お気に入り（Favorite）] タブに現在のページを追加します。
作成（Create）	新しい SnapMirror 関係または SnapVault 関係を作成します。
インベントリ	SnapMirror インベントリまたは SnapVault インベントリを実行します。

SnapMirror または SnapVault を選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
削除（Delete）	SnapMirror 関係または SnapVault 関係を削除します。
変更（Modify）	既存の SnapMirror 関係または SnapVault 関係を更新します。
[初期化（Initialize）]	特定の宛先へのネットワーク経由の初期転送を開始します。転送の優先度を低または標準に設定します。
[更新（Update）]	このコマンドは増分転送を実行します。
[再同期（Resync）]	解消された SnapMirror ペアまたは SnapVault ペアの再同期を開始します。

操作	説明
休憩（Break）	SnapMirror 関係を解消します。処理が正当かどうかまたは処理が成功したかどうかをチェックすることはできません。結果は、インベントリがこのタスクで収集されたあとに更新されます。 （注） この解消アクションは SnapVault 関係には適用できません。
[休止（Quiesce）]	送信先への SnapMirror 転送または SnapVault 転送を一時停止します。
[昇格（Promote）]	確認後に、SnapMirror を昇格させます。 （注） 昇格アクションは SnapVault 関係には適用できません。
リリース	SnapMirror または SnapVault をリリースし、関係を完全に終了します。
復帰	このオプションは、ドロップダウンリストで使用できます。復帰コマンドは、休止した SnapMirror 関係または SnapVault 関係の今後の転送を有効にします。
[中断（Abort）]	このオプションは、ドロップダウンリストで使用できます。SnapMirror 転送または SnapVault 転送を、完了前に中断します。

SnapMirror 関係の作成

はじめる前に

クラスタ内 SnapMirror 関係を作成するには、SVM ピアを作成する必要があります。クラスタ間 SnapMirror 関係を構築する場合は、クラスタ ピアとサーバ ピアを作成する必要があります。

ステップ 1 [SnapMirror（SnapMirrors）] タブに移動します。

[SnapMirror（SnapMirrors）] タブに移動する方法については、を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [SnapMirror関係の作成（Create SnapMirror Relationship）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	**説明**
[関係のタイプ（Relationship Type）] ドロップダウンリスト	関係のタイプとして次のオプションのいずれかを選択します。 • データ保護（Data protection） • ロードシェアリング（Load Sharing）
[送信先ボリューム（Destination Volume）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、送信先ボリュームを選択します。
[送信元ボリューム（Source Volume）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、送信元ボリュームを選択します。
[ポリシー（Policy）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SnapMirror ポリシーを選択します。
[スケジュール（Schedule）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SnapMirror 更新をスケジュールする cron ジョブを選択します。
[最大転送率(kbps)（Maximum Transfer Rate (Kbps)）] フィールド	最大転送速度。デフォルト値は 0 で、MTR が無制限であることを意味します。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

SnapMirror ポリシーの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択します。

ステップ 3 [SnapMirrorポリシー（SnapMirrors Policies）] タブをクリックします。
Cisco UCS Director にアカウントで作成されたすべての SnapMirror ポリシーが表示されます。[SnapMirror ポリシー（SnapMirrors Policies）] タブでは、次のアクションを実行できます。

[名前（Name）]	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	新しい SnapMirror ポリシーを作成します。

SnapMirror ポリシーを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	SnapMirror ポリシーの再起動タイプと転送速度を更新します。
削除（Delete）	確認後に、SnapMirror ポリシーを削除します。
[ルールの追加（Add Rule）]	SnapMirror ポリシーにルールを追加します。 SnapMirror ポリシーにルールを追加するには、次のフィールドに値を入力します。 • [スナップショットコピー保持カウント（Snapshot Copy Retention Count）] フィールド：スナップショット コピー保持カウント。 • [SnapMirrorラベル（SnapMirror Label）] フィールド：スナップショット コピー ラベル。 • [保持（Preserve）] チェック ボックス：スナップショット コピー予約を有効にする場合に、このチェック ボックスをオンにします。 • [警告しきい値カウント（Warning Threshold Count）] フィールド：警告しきい値カウント。
[ルールの削除（Remove Rule）]	SnapMirror ポリシーから選択されたルールを削除します。
[ルールの変更（Modify Rule）]	SnapMirror ポリシー内のルールを更新します。
[詳細の表示（View Details）]	SnapMirror ポリシー ルールを表示します。

SnapMirror ポリシーの作成

ステップ 1 [SnapMirrorポリシー（SnapMirror Policies）] タブに移動します。
[SnapMirrorポリシー（SnapMirror Policies）] タブに移動する方法については、SnapMirror ポリシーの管理,（51 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [SnapMirrorポリシーの作成（Create SnapMirror Policy）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	**説明**
[SVM 名（SVM Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SVM 名を選択します。
[ポリシー名の入力（Enter Policy Name）] フィールド	ポリシーの名前。
[リスタート（Restart）] ドロップダウンリスト	再起動のタイプとして次のオプションのいずれかを選択します。 • 常に（Always） • なし（Never） • デフォルト
[転送の優先度（Transfer Priority）] ドロップダウンリスト	転送の優先度として次のオプションのいずれかを選択します。 • なし（None） • 標準 • 低（Low）
[コメントの入力（Enter Comment）] フィールド	コメント（ある場合）。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

スナップショット ポリシーの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なスナップショット ポリシーが表示されます。[スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	新しいスナップショット ポリシーを作成します。

スナップショット ポリシーを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
[有効化/無効化（Enable/Disable）]	スナップショット ポリシーを有効または無効にします。
削除（Delete）	スナップショット ポリシーを削除します。
[詳細の表示（View Details）]	スナップショット ポリシーのスケジュールを表示します。また、新しいスケジュールを作成する、スケジュールを更新する、またはスケジュールを削除するオプションが提供されます。

スナップショット ポリシーの作成

ステップ 1 [スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブに移動します。

[スナップショットポリシー（Snapshot Policies）] タブに移動する方法については、 スナップショット ポリシーの管理, （54 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [スナップショットポリシーの作成（Create Snapshot Policy）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

操作	説明
[スナップショットポリシー名（Snapshot Policy Name）] フィールド	スナップショット ポリシーの名前。
[スケジュール（Schedule）] ドロップダウン リスト	ポリシーに追加する cron ジョブまたはスケジュール間隔を選択します。
[カウント（Count）] フィールド	スケジュールに対して保持するスナップショットの数。
[Snapmirrorラベル（Snapmirror label）] フィールド	SnapMirror のラベル。
[プレフィックス（Prefix）] フィールド	作成したスナップショット名に含めるプレフィックス テキスト。
[有効（Is Enabled）] チェックボックス	スナップショット ポリシーを有効にする場合に、このチェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

ジョブの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [ジョブ（Jobs）] タブをクリックします。
アカウントでスケジュールされたジョブが表示されます。[ジョブ（Jobs）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。

操作	説明
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
インベントリ	確認後にジョブ インベントリを実行します。

Cron ジョブ スケジュールの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [Jobスケジュール（Cron Job Schedules）] タブをクリックします。
アカウントでスケジュールされた cron ジョブが表示されます。[Jobスケジュール（Cron Job Schedules）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
作成（Create）	cron ジョブ スケジュールを作成します。

cron ジョブ スケジュールを選択すると、[変更（Modify）] アクションと [削除（Delete）] アクションが表示されます。

Cron ジョブ スケジュールの作成

ステップ 1 [Jobスケジュール（Cron Job Schedules）] タブに移動します。

[Jobスケジュール（Cron Job Schedules）] タブに移動する方法については、 Cron ジョブ スケジュールの管理, （56 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [Cronジョブスケジュールの作成（Create Cron Job Schedule）] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[ジョブスケジュール名（Job Schedule Name）] フィールド	cron ジョブ スケジュールの名前。
[日付（Day of Month）] フィールド	カンマで区切られた月の cron 日の値。
[曜日（Day of Week）] フィールド	カンマで区切られた週の cron 日の値。
[時間（Hour）] フィールド	カンマで区切られた cron 時間の値。
[分（Minute）] フィールド	カンマで区切られた cron 分の値。
[月（Month）] フィールド	カンマで区切られた cron 月の値。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

NFS サービスの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [NFSサービス（FCP Services）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なネットワーク ファイル システム（NFS）サービスが表示されます。[NFSサービス（FCP Services）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。

操作	説明
作成（Create）	NFS サービスを作成します。

NFS サービスを選択すると、次の追加アクションが表示されます。

操作	説明
変更（Modify）	NFS サービスを更新します。
[破棄（Destroy）]	NFS サービスを削除します。
[NFSサービスの開始（Starts NFS Service）]	NFS サービスを開始します。
[NFSサービスの停止（Stops NFS Service）]	NFS サービスを停止します。

NFS サービスの作成

ステップ 1 [NFSサービス（NFS Services）] タブに移動します。
[NFSサービス（NFS Services）] タブに移動する方法については、NFS サービスの管理, （57 ページ）を参照してください。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 3 [NFSサービスの作成（Create NFS Service）] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前（Name）]	説明
[SVM 名（SVM Name）] フィールド	[選択（Select）] をクリックし、SVM 名を選択します。
[NFSアクセス有効（Is NFS Access Enabled）] チェック ボックス	NFS アクセスを有効にする場合に、このチェック ボックスをオンにします。
[NFS Vstorage有効（Is NFS Vstorage Enabled）] チェック ボックス	NFS サービスの vStorage を有効にする場合に、このチェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

システム タスクの管理

Multi-Node設定は、インベントリ データの収集などのシステム タスクの処理を、プライマリ ノードから 1 つ以上のサービス ノードへオフロードしてスケーラビリティを向上させます。システム タスクは 1 つ以上のサービス ノードに割り当てることができます。システム タスクの処理のスケーリング方法は、ノードの数によって異なります。

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [システムのタスク（System Tasks）] タブをクリックします。
アカウントに対して定義されたタスクが表示されます。システム タスクの管理方法については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

ルーティング グループ ルートの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [ルーティンググループルート（Routing Group Routes）] タブをクリックします。
アカウントで設定されたルーティング グループ ルートが表示されます。[ルーティンググループルート（Routing Group Routes）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
削除（Delete）	ルーティング グループ ルートを削除します。

ライセンスの管理

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [ライセンス（Licenses）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なライセンスが表示されます。[ライセンス（Licenses）] タブでは、次のアクションを実行できます。

操作	説明
更新（Refresh）	現在のページを更新します。
[お気に入り（Favorites）]	現在のページを [お気に入り（Favorites）] タブに追加します。
追加（Add）	クラスタにライセンスを追加します。

ライセンスを選択すると、[削除（Delete）] アクションが表示されます。

ライセンスの追加

ステップ 1 メニュー バーで、[物理（Physical）] > [ストレージ（Storage）] を選択します。

ステップ 2 左側のペインで、NetApp C モード アカウントを含むポッドを選択し、NetApp C モード アカウントを選択します。

ステップ 3 [ライセンス（Licenses）] タブをクリックします。
アカウントで使用可能なライセンスが表示されます。

ステップ 4 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 5 [クラスタへのライセンスの追加（Add License to Cluster）] ダイアログボックスの [ライセンスコード（License Code）] フィールドにライセンス コードを入力します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。